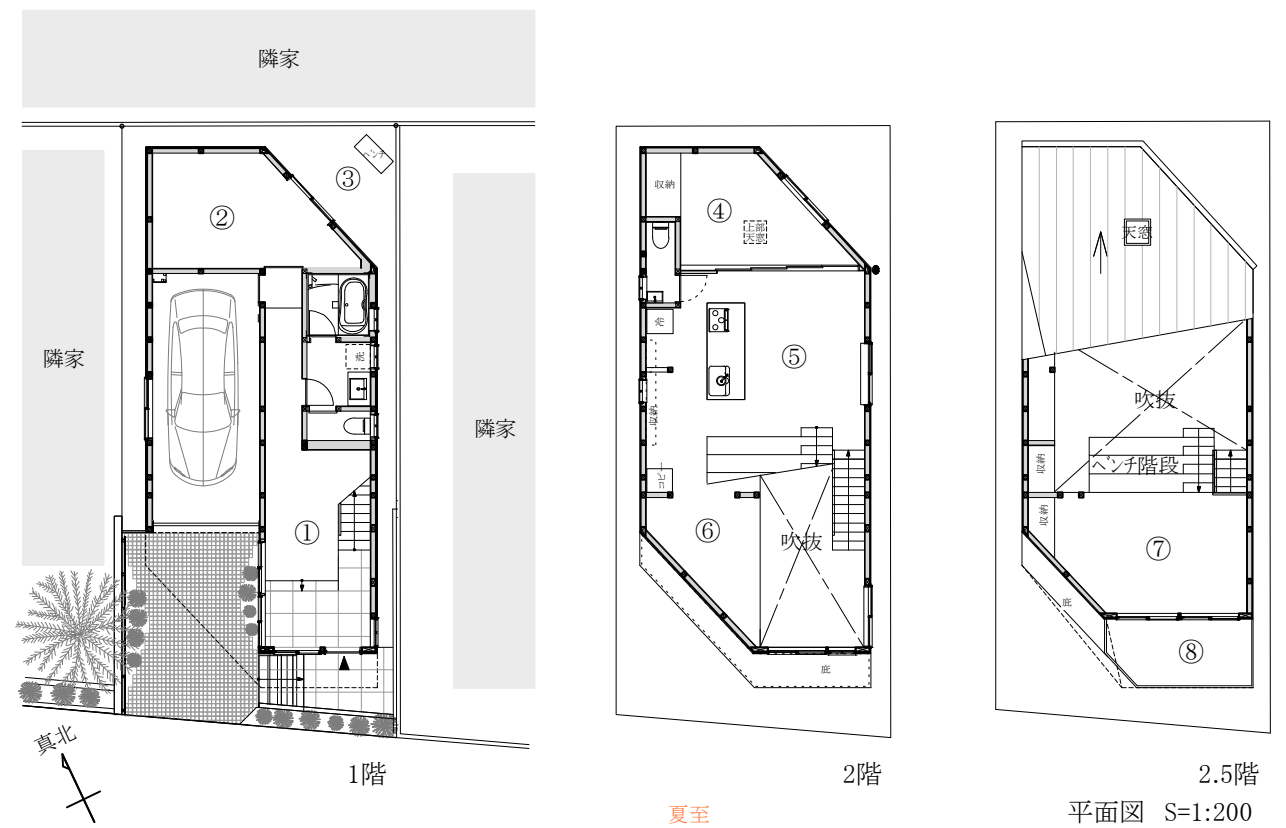
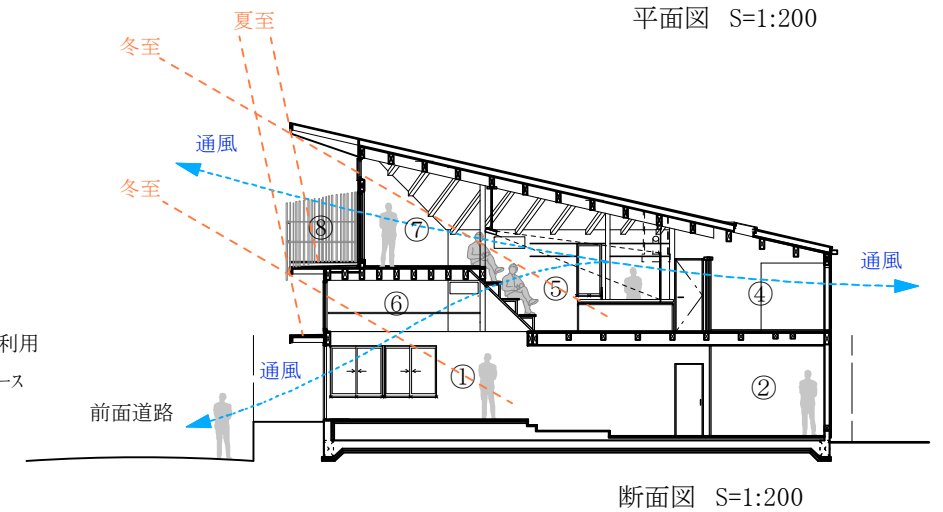


# 〈経堂\_テレワーク住宅〉

Kyodo\_Telework House



- ① 玄関ホール: 天井が高く、日が降り注ぐスペース
- ② 応接室: 静かで落ち着いたスペース
- ③ 庭: 応接室の坪庭であり、休憩スペース
- ④ 個室: 部屋を区切りたい場合は個室にもなる
- ⑤ DK: みんなの集まる場所。スクリーンを下ろしてネット会議にも利用
- ⑥ ロフト: 籠もって集中したいときや休憩したい時の畳敷きスペース
- ⑦ セカンドリビング: 陽当りの良いスペース
- ⑧ テラス: テーブルが置けるくらいのスペース



## オフィスと住宅の中間

都心のオフィスビルに会社があり、一部の社員は電車で30分の閑静な住宅街にある寮から通勤している。コロナ禍でテレワークでも仕事が可能となり、会社のオフィス機能を縮小したことから、寮の近くに複数人で集まって仕事ができる住宅規模の建物が求められた。

複数人でテレワークといっても、閉じた個室や仕切られたブースをいくつも作るのではなく、物理的、心理的な距離をとりながらも、人と人の繋がりが保たれる空間を提案した。

同一フロアに机を並べるとどうしても互いの顔の距離が近くなってしまので、スキップフロアで立体的に距離を取ることや、集中したい時には籠もれる場所、静かで落ち着いた場所など、その日の気分に応じて選べるように多様な居場所を用意した。また、会社とのネット会議時にはスクリーンを降ろし、ベンチ階段に集まることで大きな会議室としても使うことができる。

平面的なオフィス計画ではソーシャルディスタンスを確保するのは広さが必要になるが、住宅規模らしい立体的な空間では、風が抜け、1日を通して光の移ろいを感じられる空間とすることで、広いオフィスビルとは違う時間の過ごし方ができるのではないかと感じている。住宅的な空間がオフィスとしても機能することを見つけたことができた。

仕事場と暮らしの境がなくなってきたこと、働き方や暮らし方が多様になった時代だからこそ、社会の変化に対応したビルディングタイプに収まらない使い方を考えた。

所在地: 東京都世田谷区経堂  
 建物用途: 一戸建ての住宅  
 主体構造: 木造  
 敷地面積: 115.24㎡  
 建築面積: 68.69㎡  
 延床面積: 130.49㎡  
 設計期間: 2020.06~2021.02  
 工事期間: 2021.03~2021.10



① 玄関ホール



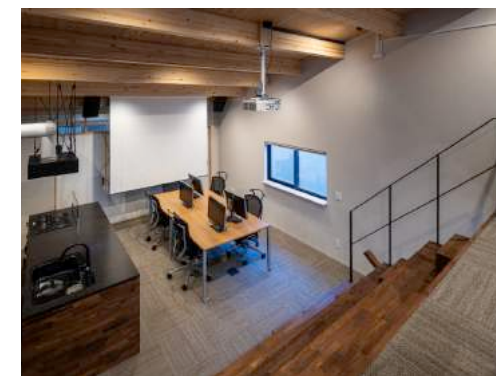
① 玄関ホール



⑧ テラス



⑦ セカンドリビング



⑤ DK: ロールスクリーンを下ろした時



④ 2F個室から見る



上部⑦セカンドリビング、下部⑥ロフトとベンチ階段



⑤DKと④個室のトップライト